

くしまっ子

目指すは県ナンバーワン！
チームのために全力で



新生串間中野球部の頼もしいキャプテンです

チームメイトと共に
県大会初制覇へ！

全カプレーで
勝ちます！



03.津曲 鉄翔くん

串間中学校3年生。小学2年のとき
に野球を始める。ポジションはセカンド。
キャプテンとして、33人の野球部
をけん引する。

6月に行われた南那珂地区中学校総合体育大会で優勝した串間中学校軟式野球部。中学校再編後、串間中として初めて挑んだ中総体で県大会への切符を勝ち取りました。

その野球部を持ち前のリーダーシップで、キャプテンとしてけん引するのが津曲鉄翔くん。市内の6中学校が統合された4月、自ら立候補してキャプテンを任された。

チームは、統合前から冬休みな

どを利用して、野球部のある福島、北方、大東、本城中のメンバーが集まり合同練習を重ね、結束を深めてきました。「合同練習のおかげで、4月からスムーズにチームが始動することができた」と振り返ります。

大会では、2試合連続でサヨナラ勝ちするなど苦しい状況を乗り越えて栄冠を勝ち取りました。「試合に出ている人も、出ない人もみんなで声を出して、心を一つにして全員野球ができました」と津曲くん。

試合や練習中はキャプテンとして、自ら率先して声を出したり、全力疾走することでチームに勢いをもたらしたいと、常に全カプレーを心掛けています。

次の目標は7月に行われる県中総体での優勝。「県大会に出場するだけでは意味がありません。県チャンピオン目指して、全カプレーで頑張りたい」と闘志を燃やす津曲くん。チームメイトと共に初制覇を目指します。



大切な環境問題 想いは行動で

1人の100歩から100人の1歩へ

活動の柱として、楽しみながら環境問題を考えるきっかけになればと、廃油を原料としたろうそくを作り、幻想的な光景が広がる「キャンドルナイト」を同年に開催。翌年以降も規模を拡大しながら毎年開催され、今年で14回目を迎える同イベントは、市民にとっても毎年の恒例行事として根付いてきました。「ひとときでも家の電気を消し、ろうそくを使うことは二酸化炭素の削減につながる。環境問題

自然の中で過ごしたり、廃油キャンドルをともし省エネや環境保全を考える「キャンドルナイト」などの活動を通じ、温暖化防止のためのエコライフを呼び掛けている環境ボランティアグループ『環の会』。活動は今年で13年目を迎えました。

その『環の会』の代表を務めるのが河野幸子さん。会を設立する以前、米のとき汁が河川の水質汚染につながるという新聞記事を目にして以来、環境に優しい生活を心掛けてきました。

2004年に県から温暖化防止活動推進員の委嘱を受け、いろいろな研修を受講していく中で、個人で取り組むよりは、みんなの力で取り組んだ方がいいとの思いから、河野さんが中心となり2005年に会を結成しました。

題を考える一つのきっかけになれば」と河野さんは話します。

2009年に県の環境保全アドバイザーに認定登録されてからは、学校や団体への環境教育や自然体験施設Camp権代を拠点に森作り活動にも取り組んできました。森作りでは、森の育成を目的に木を大きく育てるための枝打ちやシイタケの駒打ち、植樹などを行います。「二酸化炭素を吸収し、酸素を排出する森はとても大切な役割を持つ。森で体験活動をしながら過ごすだけでも、何かしらの気付きが生まれるはず」と森作りの大切さを訴えます。

河野さんの活動は、環境問題だけに留まらず、地域おこしグループ「本城歴史発見塾」や「串間史談会」「人権擁護委員」などさまざまなことに取り組みます。「どんなことでも自分が行動を起こすことで、少しでも社会の役に立てればこんな幸せなことはない。でも結局は見過ごせない世話焼きなのかな」と笑って話します。

会の設立から13年。同じ想いを持つ仲間と一緒にこれからも頑張つて取り組んでいきたいという河野さん。座右の銘は、「1人の100歩から100人の1歩へ」。そんな思いが広がってほしい、と願っています。



かわの さちこ
河野 幸子さん
(福島地区・大島)

2005年に環境ボランティアグループ環の会を設立。2014年には、それまで行ってきた環の会の地道な活動が高く評価され、地域環境保全功労者環境大臣賞を受賞した。



森の育成を目的とする「いのちの森作り」



今年で14回目を迎える「キャンドルナイト」

地域おこし協力隊

活動日記

vol.3

“串間の暮らし”をベースにした取り組みに

きよやま みさ
清山 美咲さん



地域おこし協力隊に着任して9カ月が過ぎました。私の担当業務は移住・定住の促進です。移住定住といってもその取り組みはさまざまですが、10年後、20年後もずっと住み続けたいと思える串間市であってほしいという思いから、「子どもの未来の幸せを豊かにしていくこと、そのために必要なコミュニティの変化を起こしていくこと」を活動のコンセプトに、「串間の暮らし」をベースとした取り組みを進めています。

その一つとして現在、福島高校の「地域創生学Ⅰ」の授業に関わらせていただいています。この授業では、地域活性化のためのアイデアを対話しながら生み出し、それ

を実現するために必要な学びを重ねながら実践していくプロセスで実施しています。5月は串間の地域創生につながるアイデアを生み出すために2回の対話型授業を実施し、地域資源を活用したアイデアが数多く生み出されました。

「早く行きたければ一人で行け、遠くに行きたければみんなで行け」というアフリカのことわざがあります。地域創生学の授業も、一人ひとりが持っている知識や経験を持ち寄りながら、串間のよりよい未来を描き、学び合い、実践していくプロセスをみんなで一歩ずつ丁寧に進めていきたいと思っています。